

戦争を起ささない二十一世紀へ——終戦六十三周年の記念日に寄せて——

「近所のみなさん、日本共産党です。」

八月十五日は、かつて日本が起こした、アジア太平洋戦争・終戦六十三周年の、「記念日」です。

平和に向けた、決意を新たにする機会として、ごいっしょに考えることができたらと、思います。しばらくのご協力を、よろしくお願いします。

みなさん。

連日熱戦が続く、北京オリンピックは、選手たちの活躍と同時に、世界平和を考える、よい機会にもなっているのでは、ないでしょうか。

戦争が続く、アフガニスタンやイラクからも、戦闘状態にあるロシアとグルジアからも、選手たちが参加しています。これらの国が、一日も早く、平和を回復することを、心から願わずにいられません。

みなさん。

日本は、侵略戦争の痛苦の反省の上になたって、国際紛争解決のために、武力による威嚇も、武力の行使も認めない、憲法九条をもつ国です。

そういう国として、国連憲章の根本精神である、紛争の平和的な解決のために、全力をつくすことが、期待されているのでは、ないでしょうか。

ところが、実際には、インド洋に海上自衛隊のイージス艦を送って、米軍の艦船に、タダで油を提供しています。イラクに航空自衛隊を送って、米兵や軍事物資を輸送して、米軍を支援しています。

みなさん。

アフガン戦争が始まって七年、イラク戦争が始まって、五年がたちます。テロと暴力の悪循環は、いつこうになくなりません。

アメリカの巨大な軍力をもってしても、軍事でものごとを解決することができないのは、明らかになつたのでは、ないでしょうか。

実際、アフガニスタンでは、アフガニスタン政府自身が、タリバンとの対話路線を進めています。イラクでは、イラク連邦議会議員の過半数が、米軍撤退を断固として求める書簡を、アメリカ議会に送っています。

日本共産党は、自衛隊が、インド洋からも、イラクからも撤退することを、強く求めます。

そうすることが、アフガニスタンやイラクの、国民の願いにかない、日本国憲法九条の原則にもかなう道では、ないでしょうか。

「近所のみなさん。」

今、世界では、平和の地域共同体づくりが、たくましく成長しています。

アジアにあるのが、「東南アジア友好協力条約」です。

この条約は、イラク戦争をきっかけとして、東南アジアの域外にも広がり、全部で二十五カ国、地球人口の五十七パーセントを擁する国々が、参加しています。日本や韓国、中国やロシア、インドやパキスタンも加入していますし、最近、北朝鮮も加入しました。

この条約の根本精神は、戦争放棄と、紛争の平和的な解決です。

ユーラシア大陸を覆う、巨大な平和の流れといっても、よいのではないのでしょうか。

この流れを促進する政治を、日本共産党といっしょに、実現していこうではありませんか。

来年一月に期限切れになる、新テロ対策特別措置法の延長にも、来年七月期限切れになる、イラク特別措置法の延長にも、反対して、自衛隊の撤退をこそ、実現しようではありませんか。

みなさん。

『読売新聞』の、憲法に関する連続世論調査の結果、「改憲反対」が「改憲賛成」を上回り、「九条改憲反対」は、六十パーセント、「賛成」三十一パーセントの二倍でした。

ところが国会では、「新憲法制定議員同盟」がつくられ、自民党と民主党の幹事長がそろって、役員に名前を連ねています。

また、民主党の提案で、アフガンへの陸上自衛隊派兵や、海外派兵のための、恒久法づくりが検討されているのも、重大です。

国民の民意よりも、アメリカの意向を最優先する政治であつてよいのか、ひとりひとりに問われているのではないのでしょうか。

侵略戦争に反対し、国民主権の政治を願って、一貫して頑張った、日本共産党といっしょに、憲法の力で、戦争のない二十一世紀づくりに、貢献していこうではありませんか。ありがとうございました。